

令和6年1月31日

尼崎市環境審議会

資料4

尼崎の 環境

尼崎市
令和6年3月

尼崎の環境の今を知る ～冊子の目的について～

あなたは「尼崎の環境」と聞いたとき、どのような印象を受けますか？

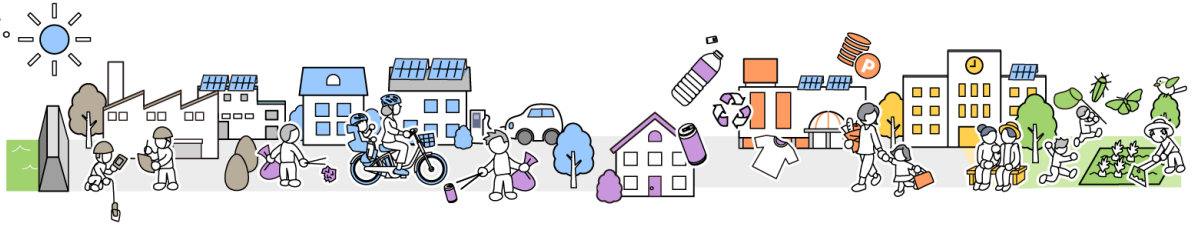
尼崎は、工業化によって大きく発展した一方で、経済成長を優先する発展は深刻な公害問題を引き起こしました。しかしながら、市民・事業者・行政による様々な取組が行われたことで、「公害のまち」と呼ばれていた尼崎の環境は他都市と比べても遜色ないほど改善されてきています。

この冊子は、「**尼崎市の環境は今、どうなっているのか？**」ということについて、現状と併せて、市の取組や理解を深めるための情報、今後の取組の方向性などを整理したものです。この冊子を通じて、尼崎の環境や今起きている環境問題について関心をもっていただければ幸いです。

「尼崎の環境についてもっと知りたい！」という方は、本市の環境行政に関する基本的な計画である尼崎市環境基本計画や毎年度の環境への取組内容を取りまとめた環境基本計画年次報告書もありますので、ぜひご覧ください。

「環境と調和して暮らし、働くまち あまがさき」の実現を目指して

尼崎市環境基本計画（令和6年3月策定）では、これまでの環境への負荷を低減するという視点だけでなく、どのような資源・エネルギーをどのように消費していくかという視点からの取組も行っていくこととしており、環境・資源には限りがあることを前提に、市民・事業者・市が互いに協力しながら、**私たち一人ひとりの意識・行動を変えていくことで、環境と調和したまちの実現**を目指すこととしています。



本冊子の構成

6つの分野に分けて、尼崎の環境の現状などを記載しており、各ページの構成は次のようになっています。

分野タイトル

- ▼ 6つの分野に分かれています。
- P3・・・気候変動
- P4・・・資源循環
- P5・・・自然環境
- P6・・・生活環境
- P7・・・環境と経済
- P8・・・環境学習

環境の現状

概ね直近10年間（2013年度以降）の動向を中心に尼崎の状況を記載しています。

今後の取組の方向性

尼崎市環境基本計画に基づき今後の取組において必要な考え方を記載しています。

気候変動～脱炭素社会の構築～

二酸化炭素排出量は減少傾向で推移しています

尼崎市内で排出される二酸化炭素（CO₂）排出量は減少傾向にあります。世界のCO₂排出量は依然として増加しており、異常気象による被害などが発生しています。そのため、尼崎市気候非常事態行動宣言に基づき、2050年までにCO₂排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラルの実現に向け、更なるCO₂排出量の削減に取り組んでいく必要があります。

●市取組
 ・脱炭素スタートアップの普及・脱炭素SDGsマシンの認定
 ・電子地域通貨「あまがさきコイン」を活用した環境配慮行動の促進
 ・グリーンセクターで発電されたCO₂フリー電気の供給
 ・近隣自治体と協力による太陽光発電設備や蓄電池の共同購入
 ・脱炭素先行地域への認定
 ・「尼崎市気候非常事態行動宣言」の表明 など

●CO₂排出量の推移と目標

2030年に2013年比 50%削減

2050年までにカーボンニュートラルを実現

Check!

地球温暖化

化石燃料の燃焼によって温室効果ガス（CO₂など）が大量に排出されることで、地球の気候が上昇することを地球温暖化といいます。地球温暖化は気温だけでなく、降水量にも影響を及ぼし、気候変動を引き起こすことで、私たちの生活にも様々な影響・被害が生じる可能性があります。

●高夏日・猛暑日の推移

増加傾向

カーボンニュートラル

温室効果ガスの排出量と吸収量が同額した状態（排出量が実質ゼロの状態）をカーボンニュートラルといいます。政府だけでなく、本市も高み、多くの自治体で2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指しています。

●カーボンニュートラルのイメージ

省エネ対策・再生エネルギー導入などによる「排出量」の削減

森林整備などによる「吸収量」の確保

今後の取組の方向性

- 近似的なエネルギー効率によりエネルギー消費量を削減するとともに、消費するエネルギーは可能な分野から二酸化炭素を排出しないものへ転換します。
- 地域におけるエネルギー消費の効率化、自転車や公共交通機関の利用促進などによりエネルギー効率の高い都市への転換を図ります。
- 気候変動が引き起こす気温の上昇や降水パターンの変化による影響・被害に対する備蓄を推進するとともに、対策を講じていきます。

市の取組

市が行ってきた主な取組を記載しています。

Check!

環境問題の理解を深める上で押さえておきたい情報などを記載しています。

気候変動～脱炭素社会の構築～

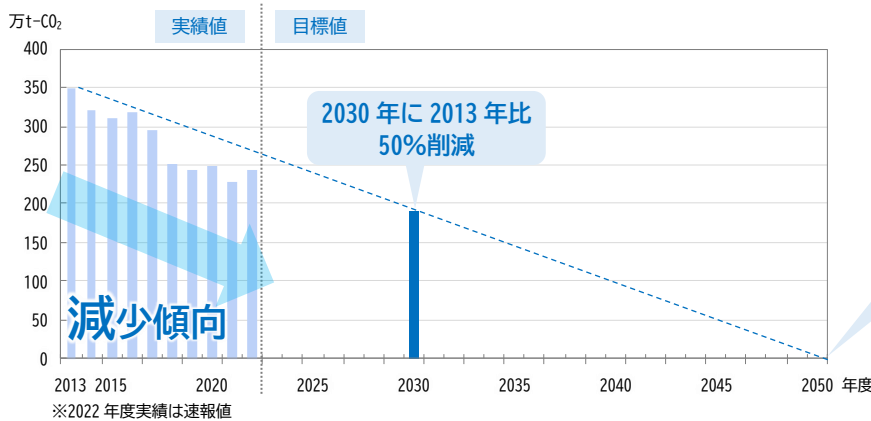
二酸化炭素排出量は減少傾向で推移しています

尼崎市内で排出される二酸化炭素（CO₂）排出量は**減少傾向**にあります。世界の温室効果ガス排出量は依然として増加しており、異常気象による被害などが発生し続けています。そのため、**尼崎市気候非常事態行動宣言**に基づき、**2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラルの実現**に向け、更なる二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいく必要があります。

●市の取組

- ・尼崎版スマートハウスの普及・尼崎版 SDGs マンションの認定
- ・電子地域通貨「あま咲きコイン」を活用した環境配慮行動の促進
- ・クリーンセンターで発電された CO₂フリー電気の供給
- ・近隣自治体との協力による太陽光発電設備や蓄電池の共同購入
- ・脱炭素先行地域への選定
- ・「尼崎市気候非常事態行動宣言」の表明 など

●二酸化炭素排出量の推移と目標



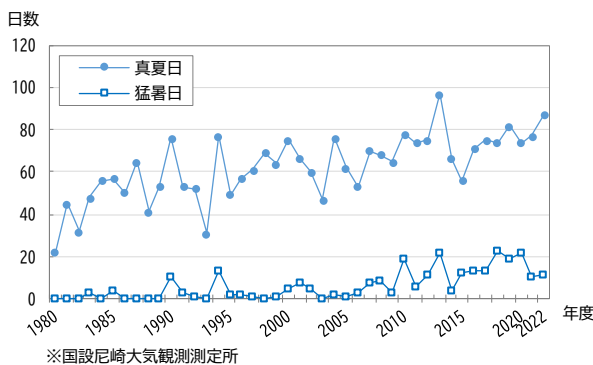
Check!

地球温暖化

化石燃料の燃焼などによって温室効果ガス[※]（CO₂ など）が大量に排出されることで、**地球の気温が上昇すること**を地球温暖化といいます。地球温暖化は気温だけでなく、降水量などにも影響を及ぼし、気候変動を引き起こしており、私たちの生活にも**様々な影響・被害が生じる可能性**があります。

※ 太陽からの熱を吸収して地球を暖める性質をもつ気体

●真夏日・猛暑日の推移

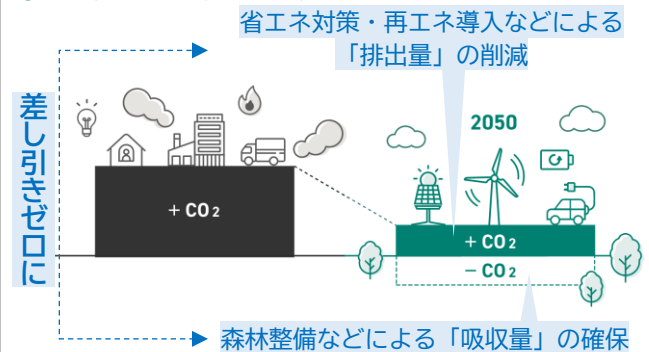


カーボンニュートラル

温室効果ガスの排出量と吸収量が均衡した状態（排出量が実質ゼロの状態）をカーボンニュートラルといいます。

政府だけでなく、本市も含め、多くの自治体が 2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指しています。

●カーボンニュートラルのイメージ



今後の取組の方向性

- ◆徹底的な省エネルギー対策により**エネルギー消費量を削減**するとともに、消費するエネルギーは可能な分野から**二酸化炭素を排出しないものへ**転換します。
- ◆地域におけるエネルギー消費の最適化、自転車や公共交通機関の利用促進などにより**エネルギー効率の高い都市へ**の転換を図ります。
- ◆気候変動が引き起こす気温の上昇や降水パターンの変化による**影響・被害に関する情報収集**を行うとともに、**対策を講じていきます**。

資源循環～循環型社会の構築～

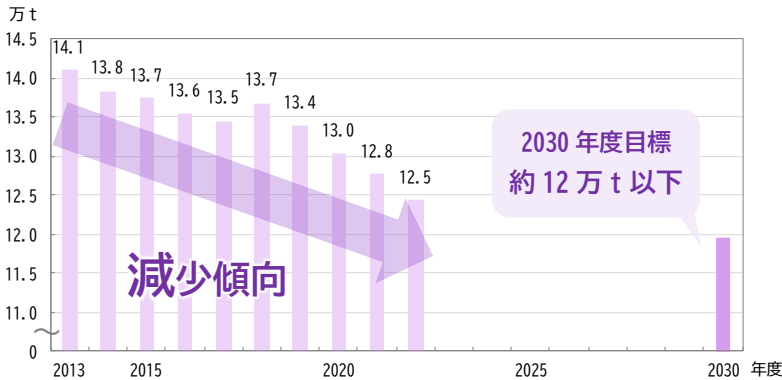
ごみ排出量は減少傾向で推移しています

尼崎市内で排出される焼却対象ごみ量は**減少傾向**にあります。が、ごみ処理施設の更新に向け、**生ごみやプラスチックごみの削減、紙資源などの資源物の分別排出**に取り組むことで更なるごみ量の削減に取り組んでいく必要があります。

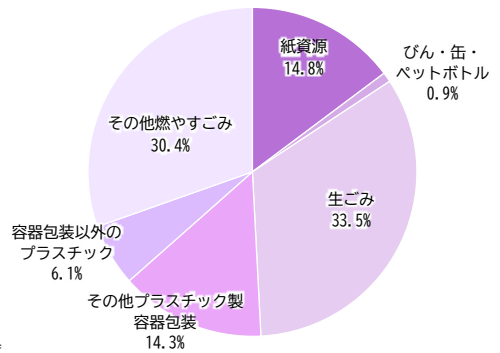
●市の取組

- ・ごみ分別アプリの配信
- ・食品ロスダイアリーの普及
- ・インターネットによる大型ごみなどの収集の申し込み受付の開始
- ・尼崎市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の改正
- ・もったいない！あまがさき 推進店の認定 など

●焼却対象ごみ量の推移と目標



●燃やすごみの組成 (2023年度)



Check!

プラスチック(海洋プラスチック)

プラスチックは製品だけでなく、包装として用いられるなど私たちの生活の様々な場面で利用されています。一方で、石油を原料としているため焼却処分をすると温室効果ガスが生じ、**地球温暖化の要因**となるほか、ポイ捨てや屋外に放置されたりすると、風雨により河川などを通じて海に流れ込み、水中を浮遊したり、海岸・海底に流れ着くことで、**海を汚すだけでなく、海洋生態系に悪影響**を及ぼしているとされています。

●漂着ごみの様子



出典：内閣府ウェブサイト

影響の例

- ・産業分野の**経済的損失**
- ・ごみ処理経費の増加
- ・**生態系への影響**
- ・有害物質の生物濃縮による**健康被害の懸念** など

プラスチックを特に多く消費する尼崎のような都市部においても**重要な課題**

食品ロス

まだ食べられるのに廃棄される食品を食品ロスといい、国民一人あたり毎日お茶碗1杯分の食べ物を捨ててるといわれています。

食品ロスは「もったいない」だけでなく、食品を生産・加工・廃棄するために**不要なエネルギーを消費**することになるほか、世界には**貧困や飢餓**で十分に食べ物を口にできていない人もおり**環境・社会などの課題とも関係**する問題です。

●世界と日本の食品ロス量



尼崎における実際の食品ロス



1世帯あたり年間 **約60kg** 廃棄 (約6万円相当)※

出典：農林水産省ウェブサイト

※尼崎市一般廃棄物処理基本計画(令和3年)にて推計

今後の取組の方向性

- ◆**3R (リデュース・リユース・リサイクル)** の取組により、できるだけごみを出さないようにします。特に一般廃棄物については、循環型社会の形成に向けて、ごみを出さないリデュースを最優先として取り組みます。
- ◆3Rに取り組んだ上でやむを得ず排出されるごみについては**適正に処理**します。

自然環境～自然共生社会の構築～

様々な生物が生息・生育している身近な自然があります

尼崎には河川や樹林、田畑・水路、緑の多い公園など様々な身近な自然が残っており、生物調査※¹では2,207種が確認されており、レッドリスト※²への掲載種も158種が確認されています。

一方で、都市化が進んでいる尼崎では、市域のほとんどを建物や道路などの人工物で占めており、古くからの自然環境は孤立・断片化や人工化が進んでいるほか、125種の外来種※³も確認されており、残された身近な自然を適切に保全していく必要があります。

●市の取組

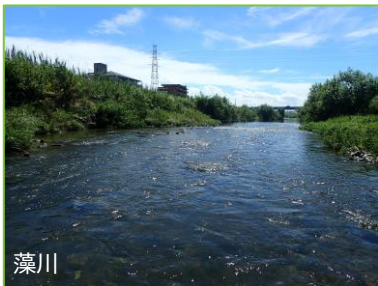
- ・環境活動団体との協力によるヒメボタルの生息環境の保全や自然林の再生実験の実施
- ・尼崎市産の野菜（あまやさい）の普及
- ・尼崎市生物多様性保全・創出ガイドラインの作成 など

※1 2012年以降において尼崎市内において確認された種を把握することを目的に、2022・2023年に実施した調査

※2 絶滅のおそれのある野生生物のリストであり、環境省、兵庫県、大阪府が作成しているリスト掲載のある種

※3 外来生物法に基づき指定されている特定外来生物、我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト、兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来種リストに掲載のある種

●尼崎の身近な自然と生物



藻川



猪名川自然林



農地



ヒメボタル



デンジソウ

Check!

生物多様性とネイチャーポジティブ

生物多様性は、生物の多様さと生物のすみかとなる生態系の豊かさを示す言葉です。私たちの暮らしは生物多様性の様々な恵み（生態系サービス）に支えられており、生物多様性を保全することは、多様な生物を守るだけでなく、私たちの暮らしを守ることもつながります。

生物多様性の恵み

生命の基盤

大気・水の循環・土壌の形成など、すべての生物の生息・生育の基盤をつくる

原材料の供給

食べ物や木材、水、医薬品の原料など、暮らしに不可欠な物質を供給する

文化の根源

感性を育む、レクリエーションの場を提供するなど、豊かな文化を支える

環境の調整

気候の調整や自然災害の緩和など、環境を調整する

△生物多様性の危機△

開発など人間活動による危機

森林伐採、埋立て、河川改修、乱獲 など

自然に対する働きかけの縮小による危機

農林水産業の衰退、過疎化など

人間により持ち込まれたものによる危機

化学物質の使用、外来種の侵入・逸出など

地球環境の変化による危機

地球の温暖化など

しかしながら、人間の様々な活動により生物多様性は危機に瀕している状態にあるとされており、世界では世界では2030年までに生物多様性の損失を止め、反転させるというネイチャーポジティブの実現に向けて取組が始まっています。

今後の取組の方向性

- ◆自然の恵みである生態系サービスを支える生物多様性を理解し、生物多様性に配慮した行動をするとともに、自然の機能をまちづくりに活かします。
- ◆身近な自然として古くから残存している河川や樹林などだけでなく、人為的に整備する緑地や水辺についても生活環境に配慮しつつ生物の生息・生育環境として保全・創出します。

生活環境～安全で快適な生活環境の保全～

概ね良好な生活環境が維持されています。

環境基準^{※1}の達成率^{※2}は、改善傾向、または高い水準で維持されています。

微小粒子状物質や新幹線に関する騒音などについては、改善がみられましたが、海域における水素イオン濃度・全窒素・全燐といった項目で改善がみられていません。

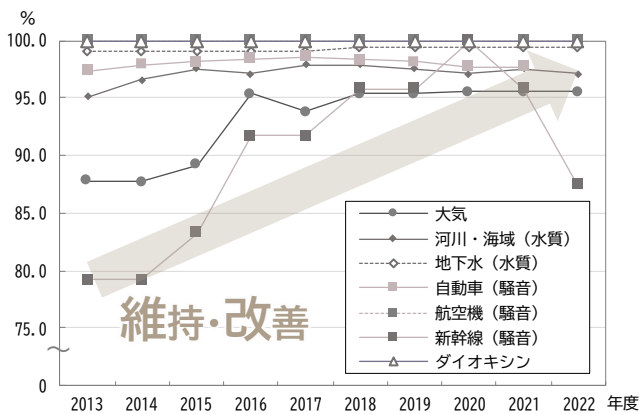
●市の取組

- ・環境関連法令等に基づく指導・立入検査
- ・アスベストの飛散を防ぐための解体工事現場への立入検査
- ・環境測定分析事業者を会員とする団体と技術者の派遣に関する協定を締結
- ・公害の歴史を継承するためのプログラムの開発・実施 など

※1 人の健康を保護し、生活環境を保全するために維持されることが望ましい基準

※2 環境基準を達成した地点の割合

●環境基準達成率の推移



●大気や水質の常時監視の様子



●KOGAI QUEST チラシ



Check!

尼崎と公害

尼崎は、工業化によって大きく発展した一方で、経済成長を優先する発展は、大気汚染や地盤沈下、水質汚濁など深刻な公害問題を引き起こしました。特に高度経済成長期には、火力発電所や工場などの煙突から排出される煙に含まれる硫酸化物が、ぜんそくを引き起こすなど大きな被害をもたらしました。

このような状況に対し、本市では様々な調査を実施し、呼吸器系疾患の発生の原因の解明に取り組んだほか、市民も公害反対運動を活発化させました。一方で、事業者側も燃料の質の改善や尼崎市・兵庫県・事業者の3者で大気汚染防止協定を締結するなど、市民・事業者・行政が協力しながら公害問題の解決に取り組みました。

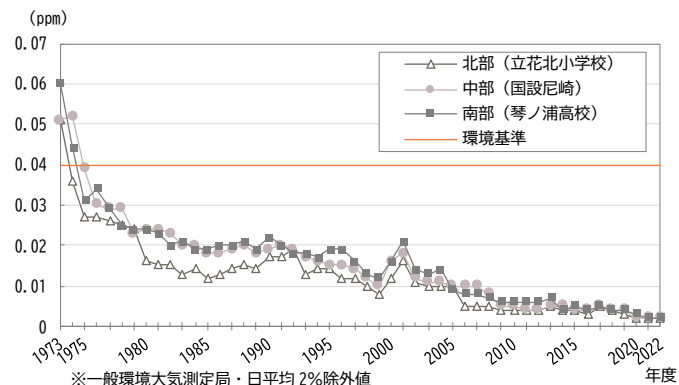
現在では、大気環境は大きく改善されており、すべての測定所において環境基準を達成しています。

●黒煙を吐く火力発電所の煙突群(昭和30年頃)



出典：尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ所蔵

●二氧化硫の推移[※]



今後の取組の方向性

◆大気環境や水環境などの状況について監視するとともに、事業所・工事現場への立入検査などにより環境汚染の未然防止に努めます。

環境と経済～経済のグリーン化～

環境負荷を低減しながら経済活動が行われています。

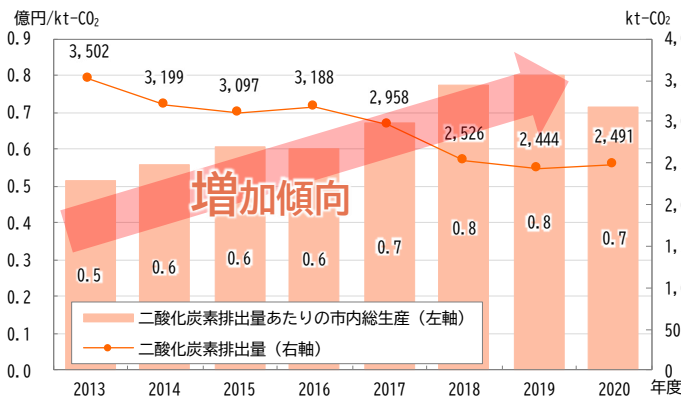
環境と経済は密接な関係にあり、経済活動によって環境が損なわれることがないようにしなければなりません。尼崎における環境と経済の関係性について、二酸化炭素排出量あたりの市内総生産※の推移をみると、増加傾向にあることから、**環境負荷の低減と経済活動の両立が進んでいる**といえます。

●市の取組

- ・エコアクション 21 の認証取得に向けた講習会の開催
- ・エコ社会見学バスツアーの実施
- ・電子地域通貨「あま咲きコイン」を活用した環境配慮行動の促進
- ・脱炭素経営の実践に向けた支援
- ・脱炭素経営にチャレンジする企業をPR するためのオープンファクトリーの開催 など

※ 市内での経済活動によって生み出された価値の総額

●二酸化炭素排出量あたりの市内総生産



●あま咲きコイン

市内の取扱加盟店で利用できるキャッシュレス決済サービス。現金やクレジットによるポイントチャージのほか、環境に優しい活動やボランティアなど、SDGs の達成につながる市の事業などへの参加によっても、ポイントをためることができる。



●オープンファクトリー

ゼロカーボンをめざして積極的に取り組んでいる市内の企業を訪問し、その取組内容を見学するイベント。ゼロカーボンへの関心や導入意欲を増進させ、さらなるゼロカーボンの推進と産業の活性化を図ることを狙いとして開催している。

Check!

エシカル消費

人や社会、環境、地域などに配慮した消費行動を行うことをエシカル消費（倫理的な消費）といい、安心・安全や品質、価格などと同じように私たちが**商品を選ぶ際の1つの尺度**として注目されています。

例えば、エコラベルが掲載されている商品を選ぶことで環境に、尼崎市産の野菜を選ぶことで地域に、フェアトレード商品を選ぶことで社会に配慮した消費につながります。

●地域を応援するエシカル消費

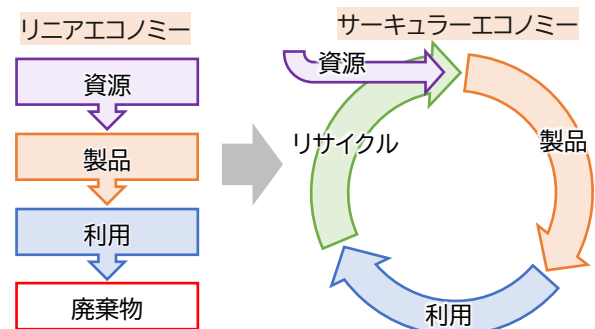


本市では、尼崎市産の野菜を「あまやさい」としてブランド化し、都市の農業について多くの市民の方々に知ってもらうことで、市内農業の振興につなげていく取組を行っています。あまやさいのロゴが表示された商品を選ぶことは、尼崎の産業の応援へとつながります。

サーキュラーエコノミー

従来の大量生産・大量消費・大量廃棄型の一方通行の経済活動をリニアエコノミー（線形経済）というのに対し、廃棄を前提とせず、資源・製品の価値の最大化を図ることで、**資源の消費を抑えつつ、循環させる経済活動**をサーキュラーエコノミー（循環経済）といいます。

●サーキュラーエコノミー(循環経済)への転換



参考：環境省「令和3年版環境・循環型社会・生物多様性白書」、オランダ政府(2016)「A Circular Economy in the Netherlands by 2050」より作成

今後の取組の方向性

- ◆ 経済活動は市内外の資源・エネルギーを消費しながら営まれており、環境に様々な影響を及ぼしていることから、環境汚染・負荷を低減するために**環境配慮型のモノ・サービスを消費・普及**します。
- ◆ 事業活動そのものに環境への配慮を組み込むことで経済的な価値だけでなく、**社会的な価値**を生み出します。

環境学習～環境意識の向上・行動の輪の拡大～

多様な主体が協力・連携して環境に関する学習・イベントが行われています

あまがさき環境オープンカレッジを中心として、**市民・学校・事業者・行政などが協力・連携**しながら環境に関する様々な講座・イベントが行われています。今後は参加者の意識・行動の変化や環境に関心のない層に対する参加の促進、社会・経済に関する取組との連携にも取り組んでいく必要があります。

●市の取組

- ・環境団体ミーティングの開催
- ・あまがさき環境教育プログラムの作成
- ・環境活動団体の活動への補助
- ・あまがさき SDGs パートナーの登録・広報 など

■あまがさき環境オープンカレッジ

あまがさき環境オープンカレッジは尼崎を愛し、環境を考えるひとたちが出会い、実践へのきっかけをつくる場として 2010 年度に開校し、市民・学校・事業者・行政などが協力しながら様々な環境に関する講座・イベントを開催しています。

●あまがさき環境オープンカレッジ活動の様子



■エコあまフェスタ

毎年、環境月間である 6 月に市民が中心となり企画・運営をする環境をテーマとしたイベントを開催しています。市内の様々な環境活動団体、学校、企業などにより環境について楽しく学べる展示や体験ブースの出展が行われます。

■あまがさき環境プログラム

様々な環境問題について、小学生一人ひとりが自分で考え、行動していくことを促していくために、本市独自の環境教育プログラムを作成しました。プログラムでは環境に詳しい「エコあまレンジャー」という 4 人の小学生と一緒に環境について学ぶことで、児童自身が 5 人目のエコあまレンジャーになることを目指します。現在、すべての市立小学校でのプログラムの実施に向け取組を進めています。

●エコあまフェスタの様子



●あまがさき環境教育プログラムの受講風景



●環境教育テキスト



Check!

尼崎と持続可能な開発目標(SDGs)

環境・社会・経済にまたがる広範囲な課題に統合的に取り組んでいくために、2015年の国連サミットで持続可能な開発目標（SDGs）が掲げられました。環境問題は社会経済活動の結果として生じているものであるため、社会・経済に関するとも関連している場合が多く、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた視点を持ちながら取り組んでいくことが必要不可欠です。

本市では、市の最上位計画である尼崎市総合計画で示すありたいまち「ひと咲き まち咲き あまがさき」の実現を通じて、**持続可能な開発目標（SDGs）の達成**に取り組んでいます。

●SDGsの17のゴール



出典：国際連合広報センターウェブサイト

今後の方針・施策

◆様々な**環境問題の現状や原因を知り、解決するための行動**につなげます。

8 ◆環境保全活動を促進するため、**多様な主体の参画や社会・経済に関する取組との連携**を進めます。